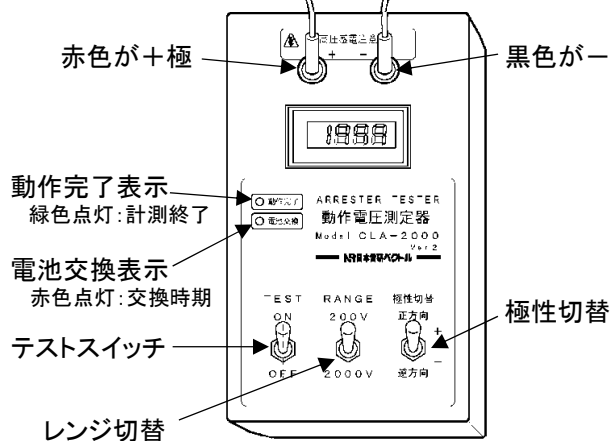
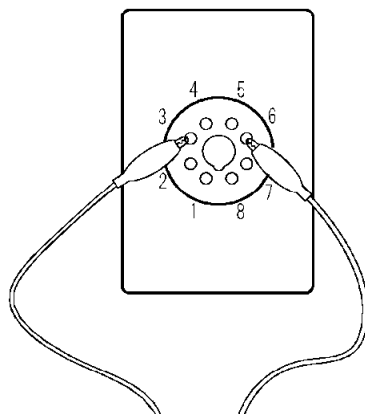


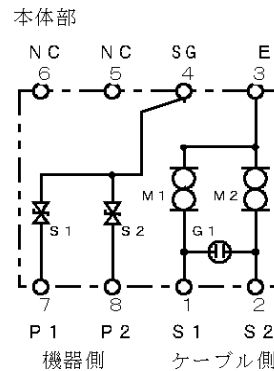
避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧(素子に微小電流を流したときの電圧)の測定値で判断します。

●端子配列と結線図

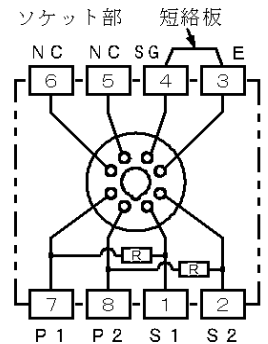
本体ピン側の図



●本体内部の回路図



●ソケット内抵抗器



●点検前のご注意

- ① 配線されたソケットより外しておこなってください。
- ② 感電にご注意ください。
TESTスイッチをONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ メータのサンプリング周期により読み取り誤差があります。
2～3回程度おこなってください。

●点検後不具合で新品交換待ちになった場合 *1

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。
交換までの雷サージ対策となります。

チェッカーの動作について

チェッカーCLA-2000のは1mAの電流制限付きです。

1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。

TESTスイッチをOFFにするまで表示します。

●素子の良否判定

- ① チェッカーCLA-2000を図のように接続してください。端子の番号は下表に従ってください。
- ② 測定するサージ吸収素子の動作電圧に合わせてRENGE(レンジ)を切り替えてください。
- ③ TESTスイッチをONに投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外は劣化(不良)と判定します。*1

●操作手順

<専用回線用避雷器> Notes : 機番No.180018&180023～

各素子	測定端子間	端子番号		印加電圧 (レンジ)	確認内容 下記の範囲であること	備考 極性切替試験
		+	-			
接地間 M1	S1/E	1	3	2000V	1000-1500の範囲であること	不要
接地間 M2	S2/E	2	3	2000V	1000-1500の範囲であること	不要
線間 P1	P1/SG	7	4	200V	61-75Vの範囲であること	±逆も確認のこと
線間 P2	P2/SG	8	4	200V	61-75Vの範囲であること	±逆も確認のこと
線間 G1	S1/S2	1	2	200V	120-180Vの範囲であること	不要
線間 P	P1/P2	7	8	200V	122-150Vの範囲であること	不要

ソケット ソケットの抵抗値を確認してください。端子No.7-1、8-2が各々約10Ωにて良好です。
高抵抗値の場合、サージで劣化しています。